



# 2ハンドル 混合栓

壁付タイプ

取扱施工説明書

施工前・使用前に必ずお読みください。

お読みになった後は、いつでも見られる所に必ず保管してください。

このたびは、2ハンドル混合栓をお求めいただきまして、まことにありがとうございました。

### 施工の前に…

- 温泉水・中水・飲用不可な井戸水には使用しないでください。
- 元止式湯沸器には使用しないでください。
- 給湯に蒸気を使用しないでください。

### 使用圧力条件について…

- 給水圧力が0.75MPaを超える場合は、市販の減圧弁で0.2MPa程度に減圧してください。
- 給水・給湯圧力は圧力差があると、温度調整がしにくくなります。やけど防止のため、給水圧力は、給湯圧力より必ず高くする、同圧になるようにしてください。  
\*電気温水器と組合わせる場合は、特にご注意ください。
- 給水・給湯にて圧力差がある場合は、別途市販の減圧弁を設けるか、「水量調整弁付きクランク(品番0102/603:別売)」を湯側・水側ともお求めいただき、交換して施工してください。
- \*減圧弁、水量調整弁付きクランクにて調節しても温度調整が容易でない場合はサーモスタット水栓のご使用をおすすめします。

## 安全上のご注意

施工前、使用前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくご使用ください。

ここに示した注意事項は、状況によって重大な結果(傷害・物損)に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

**注意** 取扱いを誤った場合に、使用者が軽傷を負うか、または、物的損害のみが発生する危険な状態が生じることが想定されます。

お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。

- 注意** 気をつけていただきたい「注意」を表します。
- 禁止** 指定した場所に触れないでください。
- 禁止** してはいけない「禁止」を表します。
- 必ず実行** 必ず実行していただく「強制」を表します。

### 施工上のご注意

<b>禁止</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 湯と水を逆に配管しないでください。やけどや器具破損の恐れがあります。</li> <li>● 配管内の、ゴミや砂などは完全に洗い流してください。</li> <li>● 給湯温度は85℃以上で使用しないでください。85℃より高温で使用されますと、製品の寿命が短くなるだけでなく、各部品の変形や破損により漏水を起こし、家財などを濡らす財産損害発生があります。</li> <li>● 製品にもたれるなどして無理な力を加えたり、大きな衝撃を与えたりしないでください。ケガをしたり、製品の変形や破損により漏水を起こし、家財などを濡らす財産損害発生があります。</li> </ul>
<b>注意</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 他所の水栓の使用などにより水圧変動が起こり、湯を使用中に湯温が急上昇することがあります。やけどの恐れがありますので、やけどの恐れがないところまで水圧変動をおさえた配管設備にしてください。</li> </ul>
<b>必ず実行</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 給湯機からの配管は、配管圧力損失を少なくするため最短距離で配管し、必ず保温材を巻いてください。</li> <li>● 各部の接続を行う際はパッキンがついていることやそれらに破損・変形がないか必ず確認をしてください。漏水を起こし、家財などを濡らす財産損害発生があります。</li> <li>● 凍結が予想される場合は、配管と水栓の水抜操作を同時に行ってください(寒冷地仕様)。凍結破損により漏水し、家財などを濡らす財産損害発生があります。</li> </ul>

### 使用上のご注意

<b>注意</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 湯側ハンドルのみを開く場合、高温の湯がそのまま出ます。取扱いには十分注意してください。</li> <li>● 小さいお子様だけの使用は避けてください。やけど、ケガをする恐れがあります。</li> <li>● 他所の水栓を同時使用されると、やけどの恐れがありますので注意してください。同時使用により水圧変動が起こり、湯の使用中に湯温が急上昇することがあります。</li> </ul>
<b>禁止</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 給湯温度は85℃まででお使いください。誤った操作によるやけどを防止するため、給湯温度は60℃程度をおすすめします。</li> <li>● シャワーヘッドには60℃以上の湯を通さないでください。シャワーヘッドの変形や破損により、やけどやケガをする恐れがあります。やけどを防止するため、45℃程度以下をおすすめします。</li> <li>● シャワーを使用して浴槽に湯をはらないでください。シャワーヘッドがこわれたり、逆流の恐れがあります。</li> <li>● 製品にもたれるなどして無理な力を加えたり、大きな衝撃を与えたりしないでください。ケガをしたり、製品の変形や破損により漏水を起こし、家財などを濡らす財産損害発生があります。</li> </ul>
<b>接触禁止</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 水栓本体の左側は給湯側のため高温になっています。金具の表面に直接肌を触れないでください。</li> <li>● 高温の湯を使用の際は、吐水口(パイプまたはスパウト)に直接肌を触れないでください。吐水口(パイプまたはスパウト)は高温になっているため、やけどをする恐れがあります。</li> </ul>
<b>必ず実行</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 使用前に、必ず適温であることを確かめてください。高温の湯が出て、やけどをする恐れがあります。</li> <li>● 使用前に吐水口(パイプまたはスパウト)側かシャワー側か切替ハンドルを確認してください。高温の湯を使用する際に間違えると、やけどをする恐れがあります。</li> <li>● ハンドルはゆっくり操作してください。ハンドルを急に閉めると、配管に衝撃が加わり、配管からの漏水を起こし、家財などを濡らす財産損害発生があります。</li> <li>● 湯を使用の際は、水側ハンドルから開栓してください。その後ゆっくり湯側ハンドルを開栓し、お好みの温度に調節してください。湯側ハンドルを先に開栓すると高温の湯が出て、やけどをする恐れがあります。</li> <li>● 湯を使用後は、必ず水側ハンドルを開栓し、しばらく水を流してから止水してください。次に使用する際に、水栓内に残っている高温の湯が出て、やけどをする恐れがあります。</li> <li>● 凍結が予想される場合は、配管と水栓の水抜操作を同時に行ってください(寒冷地仕様)。凍結破損により漏水し、家財などを濡らす財産損害発生があります。</li> <li>● 可動部分が固くて動きが悪い場合は、水あか固着や潤滑剤切れです。放置すると故障の原因になりますので修理を依頼してください。</li> </ul>

## 施工に必要な工具

\* 品名の下に品番のある工具は弊社の製品です。

【必要な工具類】

- モンキーレンチ または
- 水栓補修レンチ (弊社品番: 9601)
- シールテープ

【ザルボが外れた際に使用する工具】

- 六角レンチ
- ウォーターポンププライヤー (弊社品番: 6095)

【シャワーフックを取付ける際に使用する工具】

- 電気ドリル及びドリルの刃
- プラスドライバー
- アンカープラグ \*呼6×30

壁	下穴	適合ドリル
コンクリート		6 ミリ
ALC		5.5 ミリ

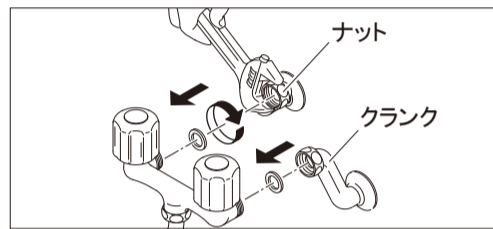
● ドリルの刃

● アンカープラグ \*呼6×30

## 取付けの前に

\* 数秒間水を流し、配管内のゴミなどを洗い流してから、元栓を閉めて取付作業を行ってください。

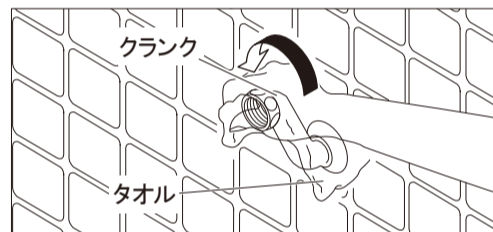
### 1. 古い混合栓本体を取外します。



「レンチ」などで、クランクと混合栓本体を固定しているナットを右方向(時計まわり)にまわして、クランクから混合栓本体を取外します。

**注意** 混合栓本体は、重量があります。落下などに十分注意して作業を行ってください。

### 2. 壁からクランクを取外します。



安全のため、固定されているクランクにタオルをあて、両手で左方向(時計まわりの逆方向)にゆっくりまわして取外します。

\* 壁内のザルボがゆるまないように注意してください。

\* もしゆるんでしまった場合は、「●ザルボが外れた場合の対処方法」を参考に対処してください。

### ●ザルボが外れた場合の対処方法

《六角レンチがある場合》

① ザルボを「プライヤー」などではさみ、クランクから取外します。

② 次にザルボのネジ部のゴミを取除き、**取付方法** 2.の要領でザルボのネジ部にシールテープを巻付けます。

③ ザルボを壁の中にねじ込み、「六角レンチ」で締付けます。

④ クランクにザルボを取付けた状態で、**取付方法** に進んでください。

《六角レンチがない場合》

① ザルボを「プライヤー」などではさみ、クランクから取外します。

② お求めいただいたクランクのネジ部に座金を取付けた後、**取付方法** 2.の要領でシールテープを巻付けます。

③ ザルボを「プライヤー」などでクランクのネジ部に取付けます。

\* この作業を行った場合 **取付方法** 文中の「クランクのネジ部」は、「ザルボのネジ部」となりますので、注意してください。

**注意** ● ザルボの取付けは、確実に行ってください。壁の中ですので、漏水が発生した場合の確認が困難になります。  
● ネジで手を切る場合がありますので、十分注意してください。

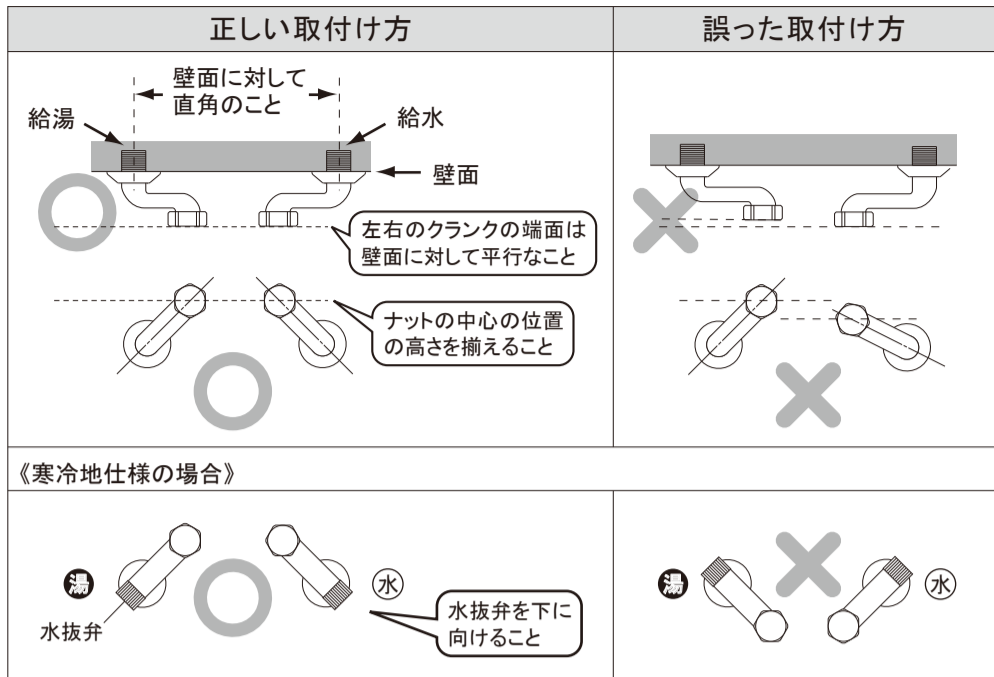
### 3. ザルボ内のネジ部の掃除をします。



**注意** ネジ部にシールテープや接着剤が残っていると、漏水や混合栓の故障の原因になります。必ずネジ部の掃除をていねいに行ってください。

# 取付方法

## 1. クランクの位置を確認します。



本品のクランクをそのまま壁に取付け、ナットの端面が図のように壁面に対して平行であり、ナットの中心の位置がそれぞれ同じ高さになる時の、クランクの回転数を確認して覚えておきます。

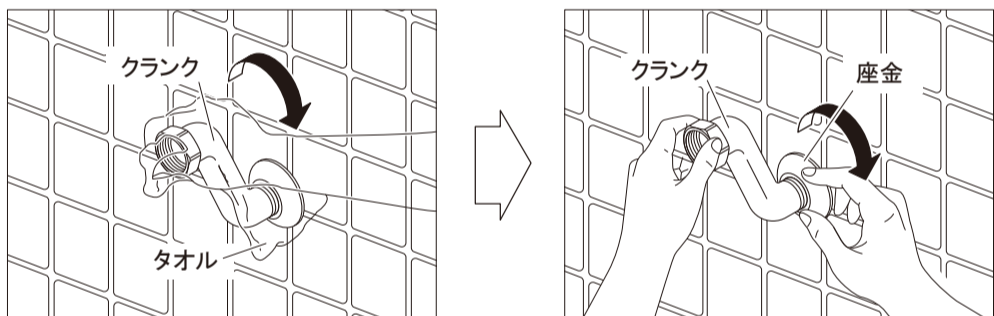
**注意** 《寒冷地仕様の場合》  
クランクの取付け状態を誤りますと、水抜きが出来なくなります。注意してください。

## 2. クランクのネジ部にシールテープを巻付けます。



左手でクランクをしっかり握り、右手でクランクのネジ部にシールテープをあてます。そのまま軽く引っ張りながら右方向(時計まわり)に7~8回、全体に均等になるように巻付けます。巻終わりましたら、シールテープを強く引っ張りちぎります。

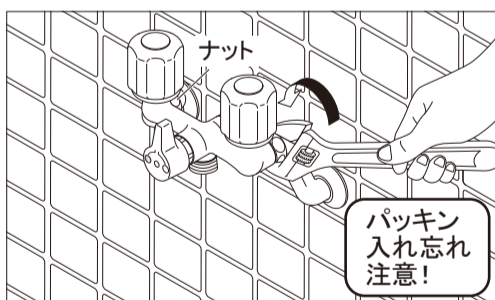
## 3. クランクを取付けます。



①クランクにタオルをあて、あらかじめ確認した回転数より、1回少ない回転数まで右方向(時計まわり)にまわして締め付けます。  
②締め終わりましたら座金をまわし、壁に密着させます。

**注意** クランクを取付ける際、逆方向にまわしてゆるめると漏水の原因になります。もしゆるめてしまった場合は、もう一度「取付方法」2.からやり直してください。

## 4. 混合栓を取付けます。

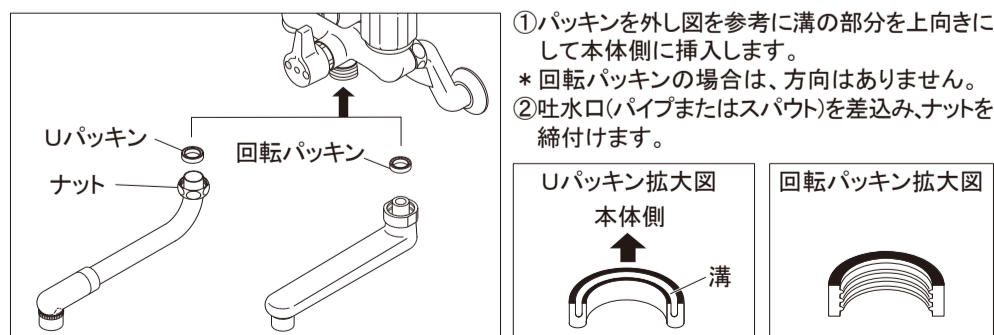


クランクのナットにクランクパッキンをはめ込み、混合栓本体をクランクに取付けます。次に「レンチ」などでナットを左右均等にしっかりと締め付け、混合栓本体をクランクに固定します。

**注意** 混合栓本体は、重量があります。落下などに十分注意して作業を行ってください。

## 5. 吐水口(パイプまたはスパウト)を取付けます。

\*すでに吐水口(パイプまたはスパウト)が本体に取付けられている場合は「6.シャワーホースを取付けます。」へ進んでください。

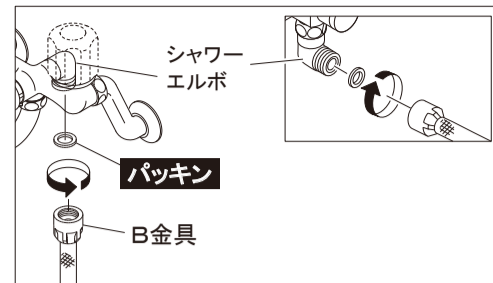


①パッキンを外し図を参考に溝の部分を上向きにして本体側に挿入します。  
\*回転パッキンの場合は、方向はありません。  
②吐水口(パイプまたはスパウト)を差込み、ナットを締め付けます。

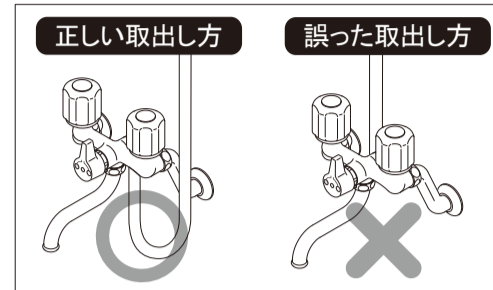
**注意** Uパッキンの挿入方向を間違えたり、傷をつけたりした場合、漏水や回転不良の原因となります。注意してください。

# 取付方法(つづき)

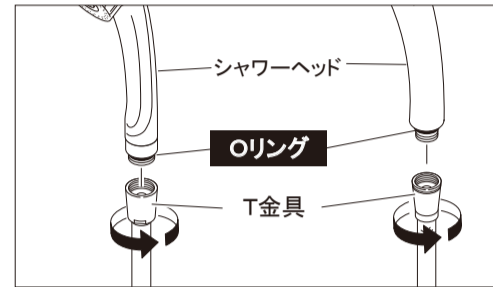
## 6. シャワーホースを取付けます。(シャワー付きの場合のみ)



①シャワーホースのB金具側を、パッキンが付いていることを確認してから、シャワーエルボに取付けます。



②シャワーホースを取付脚の外側(下側)から取出します。  
\*内側から取出すと、シャワーヘッド、シャワーホースが抜いづらくなる場合があります。また寒冷地仕様の場合、水抜きが出来なくなります。

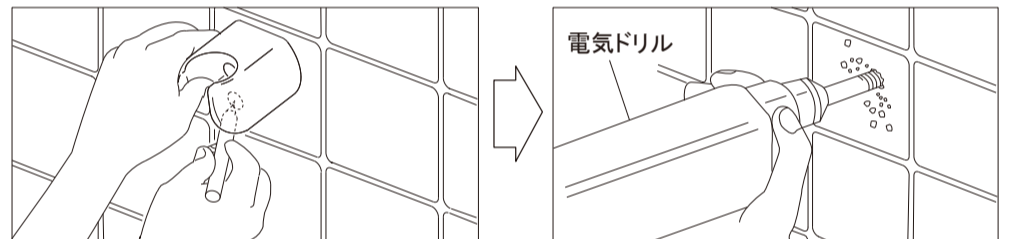


③シャワーホースのT金具側を、シャワーヘッドにOリングが付いていることを確認してから、取付けます。

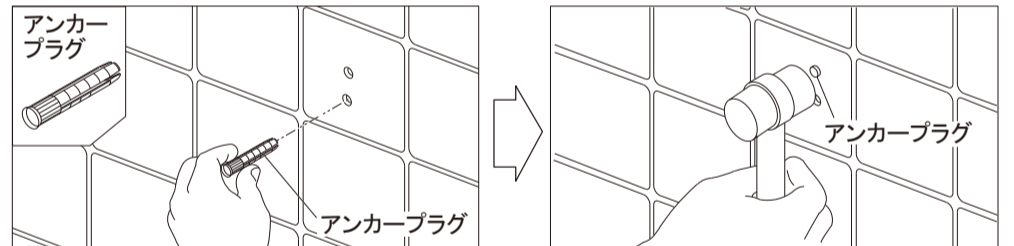
**注意** ●シャワーホースはねじれなどが起きないように注意しながら、手締めでシャワーエルボに取付けてください。破損する恐れがあります。  
●シャワーホースのB金具と、T金具の接続を間違えますと、シャワーフックにシャワーヘッドの固定が出来なくなります。ご注意ください。

## 7. シャワーフックを取付けます。(フック付きの場合のみ)

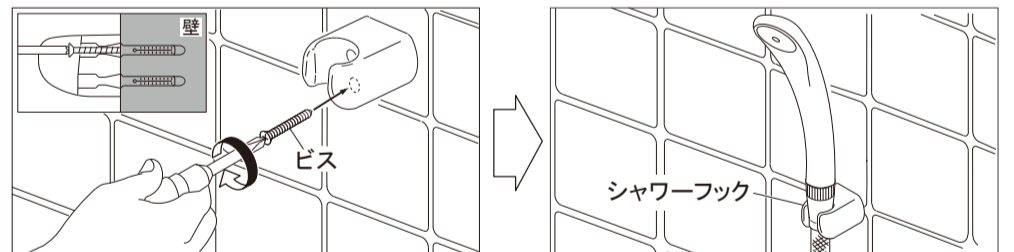
\*すでに取付けられているシャワーフックを利用する場合、シャワーホースのTナットがシャワーフックにしっかりと固定できる場合は、取付ける必要はありません。  
\*壁に取付穴をあける際は、下記の要領で「コンクリートドリル」または、「超硬ドリル(タイル張りの場合)」を使用してください。(表面 施工に必要な工具 参照)



①シャワーフックの位置を決め、壁にネジ穴をマーキングして「電気ドリル」で穴をあけます。



②ネジ穴に「アンカープラグ」を差込み、壁からはみ出さない程度に軽くたたき、埋込みます。



③シャワーフックを壁に取付け、「ドライバー」などでビスをしっかりと締め付けます。  
\*シャワーフックの取付け向きは、シャワーホースの差込口が広い方を上にしてください。

## 取付後の点検

①元栓を開き、各部に水もれがないかを確認します。  
水もれが発見された場合は、元栓を閉め、水もれする箇所を施工し直してください。  
②ハンドルを開き、湯水の混合具合および吐水状態を確認してください。

**注意** 給水・給湯圧力に圧力差があると、温度調整がしにくくなる場合があります。  
圧力差がある場合は、市販の減圧弁や、「水量調整弁付きクランク(品番0102/603:別売)」を湯側・水側ともお求めいただき、温度調整が容易になるように調整してください。

ご購入店名(施工業者名)

(販売元)

atelier DADA 株式会社

〒800-0217 福岡県北九州市小倉南区下曾根2丁目11-16  
☎(093)967-8002

(製造元)

株式会社 カフダイ